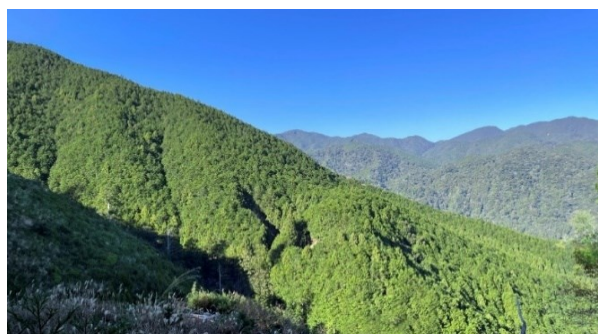


活動の場所

和歌山県那智勝浦町



活動目的

森林の維持管理を通じて、CO2削減、水源確保、災害防止、生態系維持などに貢献

活動内容

林業の専門家と連携して保有森林の維持管理を通じ、地域活性化にも取り組む

JESCOグループは、環境保全を経営の柱の1つに掲げ、2017年に和歌山県那智勝浦の保安林16.7haを取得したのを手始めに、奈良県吉野町の山林14.3ha、合計31haの森林を相次いで取得しました。

これらの森林の年間のCO2の吸収量は、420t（当社推定）に相当します。取得した森林は、林業の専門家と連携して維持・管理を行っています。手入れが十分行き届いていない森林を保有し、整備することで温室効果ガスの吸収や災害防災、水源確保、さらには生態系の保全など多様な効果が期待できます。

SEGES育てる緑のExcellent Stage2の認定を受ける

那智勝浦の保安林は世界遺産でもある那智の滝の源流に位置し、水資源の涵養や景観機能の形成にも貢献しています。「都市に立地する企業が緑化管理に取り組み地域の活性化に貢献している」として、2022年には公益財団法人都市緑化機構からSEGES育てる森のExcellent Stage2に認定されました。

センサーカメラを設置し、森林の生息状況を観察

当保安林では保安林内に生物多様性保全の目的でセンサーカメラを設置し、生息状況の確認を行っています。その結果、環境省のレッドリストに指定されているニホンカモシカのほか、ニホンザル、イノシシ、リスなどが次々と確認されています。今後は日本自然保護協会と地元の森林組合と連携しながら、保安林地域でのネイチャーポジティブの現実に向けた活動を積極的に行いたいと考えております。



センサーカメラ設置



ニホンカモシカ

PRしたいポイント

創業者で会長兼社長の杓本は、奈良県吉野の材木商の実家で育ち、森林保全の重要性を身近で感じてきたことから、幹部による研修所でのエコグリーンクラブ活動など森林を大切に作る企業風土を築いてきました。

JESCOグループでは、今後も保安林地域でのネイチャーポジティブの実現に向けた活動にも積極的に関与するなど、緑地管理を通じて地域社会への貢献活動に取り組んでまいります。

活動効果、今後の展開 等

○地域貢献の一環として、伝統行事である「熊野那智大社」の例大祭「那智の扇祭り」に参加するなど、地域との関わりを強化して参ります。

○今後、日本自然保護協会と連携して那智勝浦町の生物多様性の現状評価（生物の分布予測評価、地下水涵養量、炭素吸収量評価）、また評価結果に基づく施策の実施により地域のネイチャーポジティブ実現に向けに取り組めます。

○JESCOグループは2050年までにカーボンニュートラルを目指していますが、目標達成に向け森林保有をさらに拡大し、CO2のさらなる削減を目指します。